

### Ⅲ. 各テーマの議論のまとめ

#### 1. 人口減少社会の到来、少子高齢化の進展等を見据えた、市民の足としての公共交通のあり方について

##### (1) 主な論点

###### <前半の議論のポイント>

- 日常生活の中での公共交通の使われ方は、通勤、通学、通院、買い物、飲食、娯楽など目的によっても違おうし、居住地や年齢などの属性によっても違おうと考えられます。利用者の属性や居住地から目的地までをいろいろ想定した場合、公共交通を利用する上での課題としてどのようなことが考えられるでしょうか？利用される市民目線で、課題を出して下さい。

###### <後半の議論のポイント>

- 札幌市では、公共交通の利用促進のために、ノンステップバスや路面電車低床車両の導入、「さっぽろえきバスナビ」などの公共交通の利用支援情報の提供、ICカードの導入による利便性向上などの取組を行っています。バスや市電の利用者数が減少しているという状況にある中で、前半の議論を踏まえて、より効果的な利用促進のためにどのような取組・働きかけをしたら良いと考えますか？

##### (2) 提案のまとめ

各グループで後半の議論でまとめられた提案の全ては以下のとおりで、関連する内容ごとにまとめました。

###### 誰もがより利用しやすくなるような施設整備やソフト面の対策

- ・ ソフト面のバリアフリー化を推進するために、運転手や駅員の教育を十分に行い、駐輪場や駅案内等のボランティアも養成する。(グループ2)
- ・ 停留所から利用頻度の高い公共施設までの屋根を整備し、冬の公共交通の利便性を向上させる。(グループ6)
- ・ 2階建て(冬場は自転車預かりスペースにできる)の駐輪場を設ける等、各駅周辺の駐輪場をしっかりと整備し、自転車整理のボランティアの配置も充実させる。(グループ2)
- ・ 今後お年寄りが増えてくるので、バリアフリーのバスをもっと増やしてほしい。(グループ3)
- ・ 公共交通を使いたくなるようなポジティブでお得感のあるサービスの実施。(グループ4)
- ・ バスの遅延解消のため、バスレーンの強化を！(レーンを広げたり、自家用車を締め出すなど) (グループ5)

#### 利便性を高めるための、わかりやすく便利な情報提供・表示

- ・バスを利用しやすくするために、路線図の文字を大きくして絵や写真を使う等、もっと分かりやすい案内標示にする。(グループ 2)
- ・バス停の待ち時間の表示やルートが分かるアプリ等の開発を通じてバスを使いやすく。(グループ 4)
- ・バスの到着時刻が分かるようなシステム、例えば停留所の電光掲示板、スマホでのチェックができるように(グループ 5)
- ・地下鉄駅のエレベーターの場所をわかりやすく表示してほしい。(グループ 3)
- ・市電、地下鉄、バス等の公共交通の接続マップを一元化するとともに駅のバリアフリー情報、まちの魅力、ウォーキングやサイクリング情報も提供する。(グループ 6)

#### お得で利便性の高いカードや定期券の普及

- ・利便性の高い IC カードやドニチカキップなどをもっと普及させる。(グループ 1)
- ・特別な IC カードの販売や、PR 販売(一日駅長など)などをする。(グループ 1)
- ・サピカを「ウィズユーカード」並みにもっとお得に使えるようにする。使い方やポイントについて、もっと市民にわかりやすく紹介する。(グループ 2)
- ・札幌-大通間の無料化や定期券のゾーン料金化による市全体の利益、利便性向上。(グループ 4)

#### 利便性を高めるため路線やダイヤなどの見直し

- ・バスの利便性を高めるために、利用実態に合わせて路線やダイヤを見直す。(グループ 1)
- ・バス路線や停留所の位置、本数について市場調査を十分にしてほしい。(グループ 3)
- ・今後、多くの利用者が見込まれる方面(札幌ドーム、宮ノ沢~手稲、清田方面)への地下鉄延伸を検討する。(グループ 2)
- ・地下鉄の始発はもう少し早く、終電はもう少し遅く延長運転を。(グループ 5)

#### 利用者の立場を考えて、事業者間の連携を強化する

- ・JR、市営交通、バスなどの事業者間の連携をもっと考える。(グループ 1)
- ・北広島、江別、石狩などの札幌市近郊も含めて、総合的に検討を。(グループ 3)
- ・地下鉄(電車)、市電、バスを総合的に考えて、乗継や目的地へのアクセスを便利に。(グループ 4)

#### 料金を安く

- ・料金を値下げし、割引制度を充実させる。(グループ1)
- ・学生の割引料金をもっと充実させては？(広域の移動や地下鉄で)(グループ5)
- ・料金を安くして利用者を増やし、町を活性化させる(今は料金が少し高いと感じる)(グループ6)

#### コミュニティバスなどによる郊外の路線維持と効率化

- ・利用者の少ない地域(郊外など)や時間帯にミニバスを走らせて効率化を図っては？(グループ5)
- ・郊外の路線を将来に渡って維持するため、短距離運行の小型のもので良いので、コミュニティバスを運行する。目的に合わせたデマンド運行で利便性を確保する。(グループ6)

#### 自動車利用を減らす取組

- ・ノーカーデーをもっと広めていく。企業の協力も呼びかけ大きな運動に。(グループ3)
- ・都心部への自家用車の乗り入れを制限しては？(市内の混雑解消、公共交通を利用しやすく)(グループ5)

#### 公共交通利用者が増えるようなまちづくり

- ・地下鉄沿線に、企業や学校等の誘致や移転をすすめていく。(延伸の検討もすべき)(グループ3)
- ・公共交通、公共施設のネットワークを都市デザインと連携して実現する。(グループ6)

#### 公共交通の利用をすすめる意識啓発

- ・公共交通の危機感や状況を当事者意識を持って考える機会づくり。(グループ4)

## 2. ごみの一生とリサイクルの推進について

### (1) 主な論点

#### <前半の議論のポイント>

- 「新ごみルール」を実施して以降、市民の皆様のご協力により、札幌市のごみ量は大幅に減少しましたが、「スリムシティさっぽろ計画」に掲げたごみ量の管理目標のうち、「家庭からの一人一日あたりの廃棄ごみの量」と「リサイクル率」については未だ達成していない状況です。
- これらの目標達成に向けては、「燃やせるごみ」の半分を占める生ごみの更なる減量と、未だ「燃やせるごみ」に多く出されている資源物を適正排出できるように促していくことが必要であると考えております。
- そこで、市民の皆さんがご家庭で生ごみの水切りや堆肥化、資源物の分別などに取り組む際に、どのようなことがハードルとなっているのか、日常生活の実感をもとにお聞かせください。

#### <後半の議論のポイント>

- 前半の議論を踏まえ、市民の皆さんが家庭で行うことができる効果的なごみ減量・リサイクルの取組としてどのようなものが考えられるでしょうか？
- そうした取組の効果や取組に参加する市民の拡大に向けて、どのようなことが必要と考えられるでしょうか？
- また、そのような市民の取組に向けて、札幌市はどのような支援を行っていく必要があると考えられるでしょうか？

### (2) 提案のまとめ

各グループで後半の議論でまとめられた提案の全ては以下のとおりで、関連する内容ごとにまとめました。

#### 市民一人ひとりのごみ減量・分別を促すための情報や取組を発信する

- ・ごみ減量に関連する様々な情報や取組を、情報誌やテレビ CM 等を通じて発信していく。(グループ 2)
- ・札幌市のごみの流れを楽しく学ぶことができる「体験ツアー」を実施する。無作為抽出で市民を招待し、その様子を「広報さっぽろ」で紹介できると良い。(グループ 2)
- ・ごみ収集・減量のルールの周知を強化(広報さっぽろ、冊子、CM など)。質問、疑問を集め、解決のアイデアを共有する。(グループ 6)
- ・生ごみの水切りによるごみ減量効果と関連グッズを PR する。例えば、オシャレな水切りグッズを人が集まる場で展示して、実演と販売を行う。(グループ 2)

- ・家庭でできるごみ減量のエコ料理のアイデアコンテストを、テレビ放送局、メディアとタイアップし、実施する。(グループ5)
- ・エコクッキングなど生ごみを更に減らす工夫を推進する(できる人から取り組む)。(グループ6)
- ・休眠コンポスターの活用を。今の冊子のやり方では失敗しやすいので、新しい紹介冊子もつくってほしい。(グループ3)
- ・子供、お年寄りにも分かりやすい分別マニュアルを、古い家電など電器店で引き取ってくれない物の案内など市民の困った声を集めて、作成してほしい。(グループ5)
- ・ペットシーツ、おむつの上手なごみの出し方について、布おむつの使い方も教えるなど、知恵がほしい。(グループ5)

#### 生ごみの堆肥化を進めるための回収方法の検討

- ・生ごみの拠点回収など堆肥サイクルのシステムをつくり、進める。(グループ1)
- ・生ごみ堆肥化を進めるため、「生ごみ」のみの回収方法を検討する。(グループ2)
- ・生ごみの再利用ができる人とできない人が協力し合う仕組みづくり。(グループ4)
- ・地域ごと、集合住宅ごとに生ごみの堆肥化ならびに堆肥の利用を推進してほしい。(グループ5)

#### ごみ袋の値上げや資源回収へのインセンティブなど経済的な取組について検討する

- ・有料ごみ袋の料金をもっと高くすることも検討したら良い。その収入を戸別収集費用にまわせないか。(グループ3)
- ・ごみ処理に使われているレジ袋の有料化により個々の当事者意識を高める。(グループ4)
- ・ごみの有料化の範囲を広げ、経済的影響力を利用して減量を誘導する。(グループ6)
- ・資源回収にインセンティブがあればもっと進む、例えば民間業者に缶やPETボトルを持って行くと景品に換えてくれる事業を紹介する。(グループ3)

#### さらにリサイクル・リユースが進むような分別・収集方法に取り組む

- ・リサイクルできるものは、きちんとリサイクルできるような分別を考える(食器、ガラス、木、衣類など)。(グループ1)
- ・大型ごみ回収の電話申込みの際に、リサイクルを自分から申し出るだけでなく、オペレーターからリサイクルの方法があることを伝える。(グループ2)
- ・布のリサイクル回収を実施してほしい(他都市でやっているところもある)。(グループ3)

子どもの頃からの意識啓発を図るため、ごみ減量の教育に取り組む

- ・学校教育の中でごみ分別を学び、ごみ減量の意識を育てる。(グループ1)
- ・学校への教育・啓蒙活動により、親子の当事者意識を高める。(グループ4)

ごみの分別やごみステーションの管理にしっかり取り組む

- ・ごみの捨て方、分別のパトロールを。市と町内会が協力して推進する。(グループ4)
- ・ごみステーションの管理には、市がイニシアティブを取って取り組む(カラスがいたずらしない工夫や戸別収集で責任を明確にしてマナーアップなどの検討)。(グループ6)

再利用の取組を進める

- ・リペア=修理して使う 5R を進めよう。(グループ1)
- ・フリーマーケットの機会を増やし、大型ごみを再利用できるように。(グループ4)

リサイクルしやすい包装や過剰包装減量のため、事業者の協力を働きかける

- ・事業者にも協力してもらい、紙、パッケージをリサイクルしやすいものにし、過剰包装を減らす。(グループ1)
- ・市から企業へのリサイクルや簡易包装などの働きかけ(個人ではなかなか聞いてもらえない) グループ6)